芦高新聞

発行所
芦屋市宮川町82
県立芦屋高校
編集
出版部

本校指定店
合資会社 芦屋写真室
撮影部カメラ部
国鉄芦屋駅北口前
芦屋②四七三六番

第19回執行委員会発足

第十九代自治会役員の選挙が、六月十五日に行われた。今年も立候補者は非常に少なく、定員の七名より以上は出なかった。そのため投票は昨年同様、全員信任投票の形式で行われ、即日開票の結果、全員が信任された。今年も投票率は非常に高く、さらに昨年度を上回っている。六月三十日には、新旧両執行の引き継ぎ式が行われ、これで第十九代執行は名実共に発足したことになる。今年は昨年、一昨年と違い、女子が二人執行委員に、当選している。

会長に久保くん選出

副会長に潮崎・木野戸くん

去る六月十五日、第十九代自治会役員選挙が講堂において、行われた。その結果、立候補者七名が全員信任され、会長に久保富三夫君（2-H）副会長に潮崎克郎君（2-I）木野戸裕君（2-E）執行書記長に三宅進君（2-G）執行委員に杉坂義子さん（2-G）松倉ちづ子さん（1-B）桂直樹君（1-G）が信任された。

また文化部長には佐藤幸治君（2-A）運動部長には木本修君（2-H）が選ばれた。

今年の選挙は五月二十七日の代議員会で選挙管理委員十名が選出され、公示は翌日の二十八日に行われた。

五候補者の受けつけは六月一日から始まり、六日が締切りの予定であったが、六日にも定員には一名足らず、締切り日は九日にのばされ、ようやく定員七名が立候補した。

締切りがのばされた関係や十一・十三日にインター杯があったことなどから、九日、十日にそれぞれ予定されていた立会演説会、投票日も十四日、十五日になった。六月十四日に行われた立合演説会は四時限から体育会において開かれた。選挙管理委員長の司会で、各立候補者の立合演説が行われ、各候補がそれぞれの抱負を述べた。その後、応援演説があった。演説が終った後、質問の時間が設けられたが、質問はほとんどなく予定よりも早く終了した。今年も例年通り騒がしく、演説会が進行するに従って不真面目な態度をとる人がかなり多かった。

翌日十五日の投票日は四時限から講堂で行われた。授業時間中、投票を行ったせいか、投票率は昨年同様非常に高く、全学年で九八・七％とほとんどの人が投票している。

開票の結果は前述の通り全員信任され、各候補の得票数は別表に示すとおりである。

新旧執行の引継式は六月三十日の昼休みに体育館で行われ、始めに旧執行から前年度の反省、一般自治会員への要望などがあった後新執行から抱負などが述べられ無事、新旧執行の引継ぎを終了した。

また予算委員長であった佐藤君が文化部長となったため、後任には岩佐富泰君（2-C）が六月三十日の代議員会において選ばれた。なお、今年の選挙管理委員は次のとおり。

委員長	前川 行久	（2-I）
副委員長	佐藤 幸治	（2-A）
委員	今井 俊郎	（2-A）
	馬場 正哲	（2-C）
	南部 伸介	（2-C）
	今西 晴子	（2-I）
	津田真理子	（2-K）
	山崎 勝彦	（1-C）
	守川 順子	（1-D）
	仮屋 憲司	（1-E）

開票結果

立候補者	信任票	不信任票
久保富三夫	一、一六四	三九七
潮崎 克郎	一、〇六一	五〇二
木野戸 裕	一、〇九四	四七一
三宅 進	一、一五二	三九六
桂 直樹	九五二	五九八
松倉ちづ子	一、二二〇	三三六
杉坂 義子	一、〇五六	五一五

記者席

入りにくい執行

「執行部室に入りにくい」「執行が何をやっているかわからない」

これらはよく言われる言葉だが新執行に対しても聞かれる。というのは執行部諸君の態度にあるのではないだろうか、と思う。

あるとき、一執行委員の口から自治会員に対して経験もないのに執行のことがわかってたまるか。という意味の言葉が出た。まったくあきれかえってものがいえない。

執行部員は自分たちが自治会員の代表であるということを忘れているのではないだろうか。また、執行のやっていることが自治会員に知られていないということを自分たちの責任だとは思わないのだろうか。執行委員の全部がそうだとは言わない。でもそういう雰囲気をもった人がいるということは執行委員会として考えてもらいたい。

（T）

美化委員会改選される

去る六月十二日の美化委員会で役員の改選が行なわれた。新役員はつぎの通り。

委員長　衣笠雅博（2-H）
副委員長　竹内節子（2-K）
書記　雑賀律子（2-D）
〃　丸山衣子（2-J）

これで執行に引きつづき、美化委員会も二年にバトンタッチをしたことになる。

南館新築工事九月に完成

現在工事中の南館建直し工事は九月に完成の予定で現在65％まで工事が進んでいる。もうあと少しで西半分の新校舎ができるわけ。

訂正

五月二十七日発行された、芦高新聞一一七号の一面のリードに大橋先生が第五代校長、後藤先生は第六代校長となっていましたが、それぞれ、第六代、第七代の誤りでした。つつしんでおわび申し上げます。

部説

信任投票の規定に

3/8で総意をきめる選挙

六月十五日、例年どおり自治会役員の選挙が行なわれた。

今年も昨年同様、信任投票の形で投票が行なわれたが、この信任投票による選挙というものは「選挙への関心が薄くなる」など、実に多くの問題点をはらんでいる。

信任投票という形式は、普通の多くの立候補者が競い立って行なわれる記名式の選挙とは、自ら性質を異にしている。全く違うといっても過言ではあるまい。

まず、普通の選挙と異なる第一の問題点は、立候補者の得票数であろう。立候補者が多く出た場合は、そのそれぞれの立候補者の得票数が問題になるわけだが、信任投票の場合は、立候補者の信任票、不信任票のみが問題になる。ごくあたりまえの話だが、これを混同すると困ったことが起こってくる。生徒手帳を開いてみよう。選挙規定の第四章・第十七条にはこう書かれている。「有効投票総数の8分の3に満たない得票数では当選できない」これを普通の選挙にあてはめると、この規定はもちろんちゃんと成立する。いや、成立するどころか、選挙に多くの人の意見を反映させた立派な規定である。しかし、これをそのまま信任投票による選挙に適用するとどうなるだろうか。

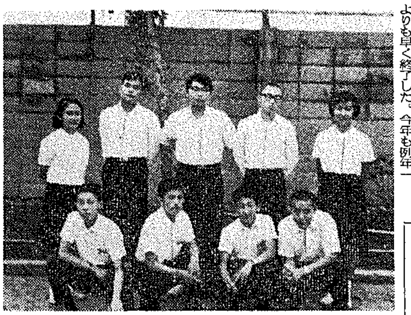
さっきも言ったように、信任投票の場合は、一人の立候補者について、信任票と不信任票のみが考えられるわけである。この場合「…8分の3に満たない得票数では当選できない」という言葉は、そのまま「…8分の3の得票数なら当選できる」という言葉におきかえられてしまう。「8分の3」こんな数字が自治会員の意思を反映しているといえるだろうか。

選挙という行事は、芦高の数多い行事の中でも最も重要な行事であるはずである。それを基盤にして、自治会が動きその中のクラブ活動やH・R活動、あるいは記念祭や定期戦の計画が進められていく。だから選挙は、最も多くの自治会員の意思が反映されねばならない。それが、わずか全体の「8分の3」の意思によって動かされてしまうのでは、自治会員の意思を反映した選挙とどうして言えようか。このようなことが自治会員の選挙への不信となり、ひいては「無関心」という言葉にもつながらないといえるだろうか。

信任投票というと、とかく形式化してしまう傾向がある。投票とは名のみで、投票する側にも、される側にも「どうせ、信任されるんだ」という安易な気持ちが心の底に潜んでいる。8分の3というわずかな数字は、その安易な気持ちにもう一つ拍車をかけるのではないか。

ただでさえ、最近「低調々々」と繰り返し言われている選挙である。もちろん、さしあたっての低調の原因は、立候補者の少ないことであり、終局的には個人の自覚の問題となる。しかし、こんなささいなこと—実際は大きなことなのだが—にも原因がないとは言いきれはしない。

特別に信任投票の場合の規定のとり方を、もう少し考えるべきではないだろうか。「8分の3」という数字を、せめて「過半数」にまで引き上げられないだろうか。



新執行部

献血運動に協力を

現在、保健委員会では芦高生全員に献血運動の協力を呼びかけている。昨年は十月ころに行ったが今年、一学期中に行ったのは、この夏休み中に芦高生の中で心臓の手術をする人がいるためで、そのため保健委員会ではかなり積極的に運動をおこしている。

しかし、献血運動の協力者は意外に少ない。

記念祭に繰り入れ

校内弁論大会を

第十八回記念祭の日程の執行原案が、代議員会によって承認された。

今年は二年生の修学旅行が例年より早く、十月の十八日ころになるので記念祭も早く、昨年よりも約一週間早く九月二十七日より十月二日まで六日間の予定で行われることになった。

例年と変ったところは、毎年一学期中に独立して開かれていた弁論大会が、この記念祭に繰り入れられたことである。他には特に目立って変わった点は見られない。

代議員会では、最初執行から原案についての説明があり、次にそれについての質問が受けつけられた。

質問では、クラス単位のバザー参加の可否についてなどがあり（これは学校側が反対。利益もバザー実行委員会へ行く）また文化祭の展示については、もっと日数を多くしてほしいとの声があったが、これも日数の関係、展示参加者は公演が見られない等の理由から入れられず、その他、審議のあと執行原案は過半数の賛成で代議員会を通過した。なお、さらに細かい予定は執行で計画が立てられる。日程は次の通り。

九月二十七日　前夜祭
二十八日　体育祭
二十九日　合唱コンクール
弁論大会
有志クラス演技
三十日　鑑賞会
十月　一日　文化祭公演
展示
二日　文化祭公演
展示
招待演技
終葬祭

（二十八日の体育祭は、雨の場合二十九日と入れかわる）

また今年も昨年に引きつづき実行委員会が組織され、実行委員長が決まった。今年は今までと違い委員長に立候補を受けつけ、他は執行の委嘱という形式がとられた。実行委員は昨年同様一－二年の各クラスから割りあてて選ばれている。

実行委員長は次の通り。

前夜祭	本田 勉	2-E
体育祭	塩見 博志	2-H
鑑賞会	春木 隆	2-E
合唱コンクール	禁村 裕一	2-E
クラス演技	中山 純子	2-E
文化祭公演	永目 誠吾	2-E
文化祭展示	好村 元茂	2-E
終葬祭	門 信雄	2-B
招待演技	池永 寛	2-F
対戦試合	溝延 公夫	2-E
バザー	瀬川あい子	2-I
舞台管理	中前 寛	2-B
印刷バッジ	馬場 正哲	2-C
デコレーション	浅野 俊康	2-F
講演会	前川 行久	2-I

裏表独語

ある昼下がりのことである、校庭を二人の男子が歩いていた。そのとき、急にほこりまじりの突風が彼らに吹きつけた。と思わず彼らは当然顔をおおうべきその手を頭の髪に持っていった。そして風がやんでからも、いつまでも髪を整えていた…。

だれもがよく見かける、芦高ならではの風景である。「長髪」それは、芦高生の誇りとすべき「自由」ということの、一つの大きな現われでもある。

現在、芦高生男子の半分以上が髪を伸ばしている。その第一の理由がいったい何であるか、それは多少プライベートに関することが多いので、それはまあそれで置いておくとして。これは、だれかさんの話であるが、ポケットにくしを忍ばせている人の数は、男子が女子を上回るとか…？それもいいだろう。髪を伸ばす以上はそれなりのエチケットというものがあるから。

しかしここで一つ考えてもらいたい。丸刈りの男子はさておいて長髪の男子の場合、むろん長髪というのは学校で認められていることだから大いに伸ばしたい人は伸ばせばいい。しかし登校下校の際に何か問題はおこらないだろうか。そうである。帽子である。われら芦高生の象徴ともいうべき学生帽をいったいどういう風にかぶっているだろう。はたしてまともにかぶっているだろうか。登校の際によくあみだかぶりをしている男子を見かける。

そんなのはむしろかぶるというよりはのせるといった方がいいだろう。何が理由でそういうかぶり方をするのか、まともにかぶれば髪が乱れるという人もその中には何人かいるだろう。ひどいのになると、帽子を手に持つだけで頭にかぶってこない人がいる。その人達の言い分はともかく、私達は芦高生としてそれを黙って見すごしていいのだろうか。他人にはけっしてよい印象を与えまい。むしろこの学校の校風というものに傷がつくかもしれない。ここで私達はもう一度頭を冷やして考えなければならないと思う。私達は「長髪自由」の自由という言葉の前に何か大切なことを忘れてはいまいか。

自治会選挙について考えよう

積極性に欠ける芦高生

アンケート結果を集める

今年も選挙は終ったが、投票形式はまたも信任投票であり、昨年もまた全員信任投票であった。まだまだ当分はこの調子が続きそうである。毎年「低調」「低調」といわれながら、なぜ改善できないのだろうか、選挙という自治会では最も重要なものが、なぜこんなに低調なのだろうか、もう一度よく考えてみよう。

出版部は「現在自治会の低調」について、自治会員はどう感じているかアンケートによって調べてみると次のような意見であった。

●選挙の意義についてどう考えるか。

交代ずる時期がくるまでしかたなくやり、しかたなく次の役員が受け継いでいるみたいで、現在の選挙に意義というものは感じられない。（一―J女）

民主政治をたてまえとする日本では必要なこと。（一―A男）

自分達が選んだんだという責任感が得られる。（三―B女）

信任・不信任という形式にはちょっと抵抗を感じるが、やっぱり選挙は必要なもの。（三―B女）

学校の自治についてもっとも大切なことの一つと思う。（三―B男）

自治会の中心となる人物を選ぶのだから常に厳正で真剣であるべきものだと思う。（三―B女）

現状ではあってもなくても同じこと、本当にわれわれの意見が反映されるような人を選ぶことが必要である。（立候補者が少ないので不可能）（三―L男）

あまり意義がないと思う。立候補者が定員スレスレでは×をつけるわけにもいかない。（三―C男）

●立候補者が少ないことについてどう考えるか。

自律に対する愛情のなさ。（三―A女）

生徒会とか自治会とか興味を感じる点がだんだん少なくなってきていることと、もう一つは勉強する時間がないと考えているから。（三―B女）

積極的にやろうという雰囲気が芦高にみられないためであろう。積極的にやるとバカみたいに見られるような風潮がある。（三―A女）

・前代執行部の低調さからきたもの。（三―B男）

全国の全体的な傾向なので仕方がないと思う。他校と比較すると良い方ではないか。（三―C男）

自分では立候補してやろうという気持ちがあるが、自治会全体となると不安になったりして、立候補できない人もあるんじゃないかしら、皆が皆自治会に関心がないというんではないと思う。（三―B女）

量より質でいいと思う。（一―J男）

●選挙の日程、PRについてどう感じたか。

せわしなく感じた。どうしてもっとゆとりのある計画を立てないのか。今後の選管になる人は計画的にやってほしい。（一―J男）

いつのまにか始まっていて、知らないうちに終わってしまったみたい。（一―A女）

間近になるまで気がつかなかったのは、まったくのPR不足。（二―K女）

日程などはあまり延期しない方がよい。（三―A男）

ポスターなどは掲示されていたが、放送などをもっと利用すればよかったと思う。（三―B女）

●選挙が身近に感じられないのはなぜだと思うか。

選管の独走の感が強かった。（二―K男）

芦高の自治は自分達の手で行なうんだということを自覚していないから。（三―J男）

執行委員だけがやっているみたい。（一―A男）

あまりH・Rで選挙のことをとり上げないし、自治会員の認識不足と、自覚がないことが大きな問題。（三―J男）

その他選挙の規定について、信任・不信任の場合はもっと規定をきびしくすべきだという意見が多かった。

結局は個人の意志

低調な選挙への関心さ

今年も、選挙が終ったが、毎年低調だといわれるこの選挙、いったいどこに原因があるのか、そしてそれをどうすればいいのか。今年の選挙をもう一度振り返って見よう。

相変らず少ない立候補者、締切りまでに、立候補者を定員まで持って行くために、選管では、代議員会まで動員して、候補者を探し出している。「立候補者や～い」というところである。

そこには〃立候補〃という本来の姿さえ失われている。選挙が立候補を立てまえとする以上、だれかが出てくるまで待つのが本当のはずである。ところが現実に、そんなことをやっているといつまでも選挙は行われない。選挙が行なわれなければ、自治会の役員が決まらない、役員が決まらなければ、後に続く、記念祭を始めとする諸行事、H・R、クラブ活動などの自治会活動に、たちまち支障をきたすことになる。つまりは、芦高自治の活動崩壊を意味する、現在は崩壊寸前まで来ているのだ。それすら知られていない。

最近、芦高は曲り角に来ているといわれる、時期的にも中ダルミでクラブ活動などにおいても、初期のころから比べると、全く気魄が失われているといわれる。選挙においてもそれが如実に現われているのではないか。立候補者が少ない―信任投票―選挙の盛り上りのなさ―無関心。もはや、一つの動かなくルートができてしまっている。今のようすだとこの調子がまだ何年も続きそうである。

いったいどこにその〃無関心〃〃立候補者の少なさ〃の理由があるのだろうか〃自治活動が身近に感じられない〃〃勉強との両立ができにくい〃〃PR不足〃等々、いろいろな原因はあるだろう。しかし、一番根本の問題は、やはり個人の自覚のなさであろう。「選挙なんかじゃまくさい」そんな風潮ができ上ってしまっている、いやそれすら思わない。選挙という、自分の最低限の義務からさえも逃避、回避しているように思われる。

〃おもしろくないから〃それだけの理由で大事な選挙から逃げてしまっていいのか。もちろん、それらを助長するいろいろな問題が他にあることは確かである。

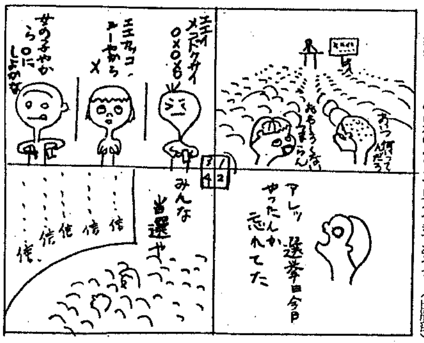
ここ数年来いわれ続けている、執行と一般自治会員とのへだたり執行の方にも、責任の一端があるはずである。毎年々々そういう声が聞かれながら結局、その問題は、ずっと持ちこされたままである。

発足当時は何とかしようと思っていても、一年たって見ると、やはり、宙に浮いたままであったというのが少なくない。ただ〃みんながついて来ないから〃ではすまされない。

なぜ立候補者が少ないのか〃勉強との両立ができない〃という理由を考え出す人がいるだろう。しかし、それもいわば気魄の問題であろう。確かに、執行などの仕事はしんどい。勉強の時間も多くとられてしまう。しかしそれも、気魄の問題であろう「自分にはそんなことはできない」始めからあきらめてしまう。どうせだれかがやるんだという安易な気持、それが、今芦高の選挙を衰退させている。

くり返し、いうが選挙というものはもっと重要なもののはずである。自治会というものは水のようなものである。あるときは何も思わないが、ない場合は、たちまち、学校生活に支障をきたしてくるいまのような、選挙のやり方では、自治会は衰退する一方である。

自治会の活発化はまずこの選挙から、もう一度、一人一人が考えて見るべきであろう。（出版部）


おい、何やってんだろ
おもしろくない
つまらん
エエイメンドクサイ
○×○×○
エエカッコ、ーーやから
×
女の子やから
○にしよかな
みんな
当選や
信　信　信　信　信
アレッ
選挙今日やったんか
忘れてた

原因はどこにある

執行と自治会員

座談会

司　今日は選挙について話し合っていただきたいと思います。それについて先日アンケートを取りましたので、それも参考にして行きたいと思います。まず最近選挙が低調だといわれているわけですけど、選挙に関心を持てないのは何故だと思われますか。

A　期間が短かすぎると思います。あれでは何か知らないうちに来ていつのまにか終ってしまった感じがします。それから立候補者自身にも難があるように思います

E　立候補者が少なすぎる。

執　信任投票だったから、あまり盛り上りが感じられなかったんですね。

司　立候補者が少ないというところに問題があるようですけど。勉強と自治会活動との両立などについては。

B　それは、やる気さえあれば両立できると思うのです。結局個人の意志の問題ですけど。

E　今までの執行部なんかにも問題がありますね。今までの執行がちゃんと勉強と自治会活動の両立をさせていてくれたら、僕たちもみんな安心してついていけるわけですし、立候補者などもふえてくるんじゃないかと思います。

執　今度の執行はその両立を実践していくつもりです。

E　それなら結構です。

C　執行部以外の人は、全く無関心ですね。

司　その無関心はどこに原因があるんでしょう。

D　執行部と一般自治会員が全く別なことをしているような感じを受けます。何か全体を通しての活動が必要だと思います。

A　ある一定の人しか関心がないわけなんですね。だから私思うんですけど、自治会員みんなに何かの役を持たせたらいいと思うんです。何かの役をもたせて、それを通じて、自治会活動とか選挙なんかに関心を持たせるようにするといいんじゃないですか。

執　でも、それはちょっと不可能だと思います。自治会員全員に役目を持たすというのは…。

A　そんなことはないと思います。いまクラスの役員なんかも少ないでしょ。美化とか保健とか…あんなものをもっとふやしてやったらいいと思います。今のままだと自分がいま自治会に属しているということさえわからない。

執　それより個人の考え方が間違っている。

A　でも、一年なんかは自治会や選挙については何もわからない一番はじめにオリエンテーションで少し説明があったぐらいで、後は説明委員に頼っているわけですけど、説明委員自身、自治会のことにあいまいで…。直接、執行部の人がクラスへ来てくれるとか、またもっと多く話し合いの場を持つべきじゃないでしょうか。

F　執行部はもっと一般自治会員に関心を持たすように努力するべきだと思いますけれど。

執　でもそれは個人々々が自分たちでやろうという気がなければ仕方がないのじゃありませんか。執行部がもっとチャンスを与えるべきですよ。

司　お互いに責任を相手の方に求めているようですが、執行部と一般自治会員とが歩みよるためにはどうしたらいいと思われますか

E　やはり、もっと話し合いの場を多く持つべきですね。

C　選挙なんかでも、事前にクラス等で話し合ったりしたらよかったと思います。執行部も積極的に関心を持たすように。

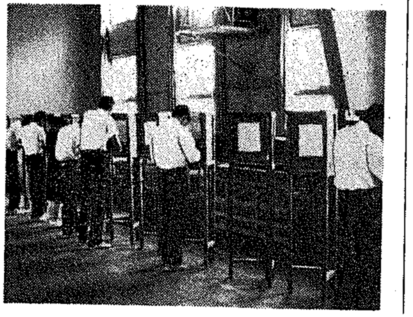
司　クラス等の小単位でもっと話し合うべきだというのですね。

執　ほか、PRするしかない。

司　選挙なんかではそのPRと選管がやるわけですけど、今年のPRについては何か少しものたりなかったようですが。

執　しかしPRにも限度があるのではないか。

C　結局、個人の自覚の問題だと思う。



投　票　風　景

役員選挙を反省

選挙管理委員会

今年の役員選挙についてまず全体的な印象から反省してみると、毎年のことでもあろうが「選挙管理委員会」そういう一つの、しかも間接的ではあるが自治会員より推薦され承認された団体が、発足され、そのとたん自治会を思い芦高を思い、やれPRだやれ候補者受付だやれ候補者がいないやれ締切り延期やれ公報だ早くしろなどで、走り回り心配し、半ば狂った状態で、また心の一部に絶望と恨みさえをもかくし持ち、任務遂行に努めている、がしかし一旦ある平凡な一自治会員の側から、この事態と自治会員とを見くらべると実にとっけいな馬鹿にした状態であることに気づく、つまり「選管？そりゃなんだ？」「奇麗なポスターね」「え！明日立会演説会？」こんな印象がこれはいわば常識化されているが、いやに強く残る。それは選管のPRのためなのか、そりゃ選管を責めるのもよいが、この選挙が生徒手帳にも書かれている年中行事であるし、この現状が今年だけでないことを考えていただきたい。教育制度によるものか、社会の問題か、生徒の能力の問題か、そのようなことはわれわれの知る所でもない―判定できるものでもないので書かないが、要は自治会員一人一人の芦高においての自分の位置立場を認識しておく所にあると思われる。

このような状態をわれわれは予想し自然候補者の出ないことをも予想し、もっぱら候補者集めに力をいれた、どうかというと、これは選管の仕事ではないのであるが。よいことに本当の業務の方は、スムーズに進んだ、投票箱、投票台は、芦屋市選挙管理委員会より今年の選挙の資料と交換条件により好意的に借りることができた、今年の選挙でとくに例年と異った点はこの点ともう三つ、選挙を例年より約一カ月早くしたことそのためいろいろな行事とぶっかり非常に運動期間が短かく、無理があるのではないかと思われたが、案の定延期せざるをえなかったが、目的は達成された、もう一点は、選挙運動を信任投票でもあったので、候補と話し合う会をもうけたが、これも日数がなかったので完全ではなく、そのためPRも不足がちになった。もう一点は投票用紙も候補者一人一人にわけたことこのため投票の際PRに手落ちがあり、とまどわれた方が多かったのは反省しておりますがこの結果開票は実に短時間にすみよかったと思っています。

なお投票の際選管同志のくいちがいのため学年別の投票率が出さなかったことをおわびいたします。以上今年の反省としみなさんが自治会員であることをもっと自覚していただいたく思い反省といたします。

公　　募

記念祭プログラム表紙
バッジ・ポスターのデザイン
色は二色以内（バッジ）
第十八回を入れる
締　切　9月10日
記念祭印刷バッジ実行委員

バスケット部優勝

兵庫県高校総合体育大会

＜バスケット＞

【男子】

二回戦　芦屋（102-50）灘商

三回戦　芦屋（88-43）武庫工

四回戦　芦屋（87-67）市立神戸商業

準々決勝　芦屋（108-75）市立西宮東

決勝リーグ一回戦　芦屋（72-70）神戸

決勝リーグ二回戦　芦屋（76-72）葺合

決勝リーグ三回戦　芦屋（84-60）関学

この結果、県下一位、全国大会出場

【女子】

二回戦　芦屋（57-25）姫路南

三回戦　芦屋（17-70）夙川学院

＜体操＞

【男子】

＜団体総合＞　第五位

＜個人総合＞　第十位　武本好文

＜種目別＞

跳馬　一位　武本好文

【女子】

＜団体総合＞　第十位

この結果タンブリング一位の武本好文（三年）が全国大会に出場

＜バレー＞

【男子】

芦屋（1-2）甲陽

（於　灘商　六月五日）

【女子】

芦屋（0-2）小野高

（於　県兵工）

＜剣道＞

団体戦

芦屋（4-1）明南

芦屋（2-2）県西宮

代表　0-1

個人戦

代表三年　門田

一回戦　香住

二回戦　西脇

三回戦　尼東

＜サッカー＞

新人戦　阪神地区二位

芦屋1（1-1　0-0）1市芦　抽選勝

芦屋3（1-1　2-0）1甲南

芦屋1（0-0　1-0）0武庫工業

芦屋0（0-1　0-1）2報徳

県新人大会　県二位

芦屋1（1-0　0-0）0福崎

芦屋0（0-2　0-2）2神戸

芦屋1（0-0　0-0　1-0　0-0）0兵庫工

総合体育大会

芦屋2（0-0　2-0）0星陵

芦屋0（0-2　0-0）2関学

＜陸上競技＞

百m（男子）

第一予選通過　小松　11秒06

室谷　12秒00

第二予選出場　失格

二百m（男子）

第一、第二予選通過

小松　23・07秒

有巣　24・00秒

準決勝出場—失格

四百m（男子）

第一、第二予選通過

有巣　52・01秒

片岡　53・08秒

準決勝出場—失格

四百mリレー

男子—（片岡、有巣、小松、室谷）

予選通過　45・06秒

準決勝出場—失格

一六〇〇mリレー

男子（小松、有巣、片岡、西内）

予選通過（三位、四位、一位、五位）

準決勝出場—三位で失格

二百m（女子）

第一予選通過　寺坂

第二予選出場　失格

四百mリレー

女子（佐長、寺坂、北村、小嶋）

予選通過　54・05秒

準決勝出場　失格

＜軟庭＞

男子個人戦

一回戦

岩橋・石原（4-3）洲本実

小池・岡嶋（4-3）三原

福島・広田（4-1）龍野実

二回戦

岩橋・石原（2-4）兵庫

小池・岡嶋（4-3）神戸

福島・広田（4-2）葺合

三回戦

小池・岡嶋（3-4）明南

福島・広田（4-2）滝川

準々決勝で折田・大中組に4-2で破れ、全日出場の残り2チームを選出する。リーグ戦にはいり県商に2-4で、市姫路を1-4で破ったが洲本実に4-1で破れ全日出場を得られず。

女子個人戦

一回戦

鈴木・栗岡（1-4）生野

田辺・浦谷（2-4）赤穂

ともに一回戦で破れる。

男子団体戦

一回戦　不戦勝

二回戦　芦屋（2-1）滝川

準々決勝　芦屋（0-2）長田

＜卓球＞

（団体男子）二回戦

芦屋　1-3　姫高

（同　女子）

一回戦　芦屋　3-1　琴丘

二回戦　芦屋　3-0　明商

三回戦　芦屋　3-1　福崎

四回戦　芦屋　2-3　県伊丹

▽シングルス

（男子二回戦）

丸上　2-1　山田（姫路）

（同　三回戦）

丸上　2-0　磯田（神戸）

（同　四回戦）

丸上　0-2　川上（西脇）

＜柔道＞

団体戦予選リーグ

芦屋　2-0　山崎

芦屋　5-0　楠

同決勝トーナメント

芦屋　0-2　育英

個人戦トーナメント

軽量級二回戦

近藤（勝）—長田

同　三回戦

近藤（負）—県兵庫

執行委員となって

一—G　桂　直樹

いつのまにか一カ月矢のように過ぎさった、あの日から、そうだ第十九代自治会選挙投票日から、一カ月前のぼく「立候補しようか、それともやめようか」と迷っていた自分の気持ちがいまになって恥かしく思われる。立会演説会で台上に上がって一目見回したとき一点のごとくに一人一人の顔が見えたとき、恥かしさより恐ろしかったその日も過ぎ一睡ねむれぬ夜を迎え一段と恐ろしさが増してくるような夜だった。でもいつのまにかすやすやとねむっているぼくであった。その日はいやにツキのない日であった、何事にしてもである。はや悪い予感のまえぶれともいえよういやないやな長い二十四時間を迎えていた。一日中授業はうわの空、右から入れば左へと一旦停止もしないでつぎつぎと忘れていっていた。やっときたぼくの投票順（○にしたか×にしたかはご想像で）だ、一息に書いた書きまくった、そして静かに投票箱へ歩いて行く、その前に到着だ。たった一枚の紙を2㎝×5㎝ぐらいの投票口へ投入した。その瞬間ホットした。終わったのだ終わったのだ。五時間後のぼくだ「ああよかった」「バンザイ」とこの幼稚なぼくをだれもが喜んでくれた。さてきょうは第十九代執行委員会の初例会日である。そのまえにまだぼくたちは任命されていないが記念祭をひかえているので早く始めることにした次第である。

まず一人一人の抱負並に要望を聞きそして本題の記念祭関係について議論し始めた、その合間合間にぼくも意見をいうのだ、すると久保さんはじめ各役員の方々も聞いてくださるしまた批判もしてくださる、なんともありがたいことであろうか、一年のぼくでありながら芦高自治会の気風とはここにもあるとつくづく感じさせられる、いいものだ本当にいいものだ、確かに仕事は始めだからわかりにくい、でもその職務を尽くすということに、ぼくは喜びを感じ希望も持てるのだ。そして二回、三回と例会も数を重ね実行委員長並びに実行委員も決定し一応のおぜん立ては済んだもようである。

しかしこれからである。第一に記念祭まで二か月余りの日を有効に使わねばとみんなで話しあっている、第二は記念祭後の自治会の盛上げることも一つの課題とすることである、また現在はクラス対抗も、ひかえて毎日いそがしいことだろうと思えるが、決してそんなことはなく運動部長を中心に、立派なものに完成させたいと毎日活動している。この執行部は単なる事務的機関ではなく自治会の中で成り立っているのである、つまりもっともっとみんなの中から何かを引出そうと努力する所であり実行させるところでもあるでしょう。最後にぼくは、公約中のみんなの委員会となるよう努力し、ぼくも積極的に参加してみようと心がけています。「ただ執行委員という肩書を下げているようには絶対になりたくない、きっと何かをやりとげてみる」と毎日心がけて与えられた職に責任を持って活動しているぼくである、早かった一カ月である、矢のような一と月であった。

校内大会開かれる

校内大会がテストの終った翌日十四日から始まった。今年は、男子、女子共にバレーボール、各クラスよく健闘したが結果は次のようになった。

【男子】

三年　一位L組、二位F組

二年　一位J組、二位G組

【女子】

三年　一位K組、二位A組

二年　一位J組、二位K組

文化部短信

＝近況＝

＜コーラス部＞

目下、七月二十九日のコンクールめざして、全員ガンバッテイマス。八月上旬合宿計画中。

＜箏曲部＞

一年生は"練習曲集"もほとんどと終わり、夏休みより記念祭のための"花姿奏曲"へ。二年生は"さくら変奏曲"を終わって"変奏曲五木の子守歌"を練習中。一・二年生間の壁もやわらぎ、なごやかな雰囲気の中で、練習しています。

＜華道部＞

二年生がいないので、一年十五名が、三年生にいろいろおそわり、記念祭を目標にハッスルしています。

＜鉄道研究部＞

夏休みには、中部・北陸地方を旅行するので現在その計画におおわらわ、それに、部誌「パンタグラフ」は現在まで97号を出し、100号に到達は時間の問題。鉄研創立以来二十二年目でこの偉業を果たそうとしております。また、記念祭には「ラッシュ」を特集としました。ラッシュのことは調べることが山ほどあり、大いにハッスルしようと思っています。どうぞお楽しみに。

＜書道部＞

できるだけ大きな紙にできるだけ大きな筆で書こうと大はりきり。夏休みを有意義に使って記念祭の準備中。

＜地理研究部＞

現在、東南アジアの政治、産業が経済、文化と三班に分かれ、政治はベトナム、インドネシアを中心に、産業経済は農業その他根深い問題と取り組んでいる。

＜被服研究部＞

マンダリヤ・パールフラットを使用して、夏向きの涼しげな、パックを、製作中。

＜食物研究部＞

調理室がいつ使わされるかわからないので、今のうちにせっせと調理実習をしています。今月のテーマも引き続きお菓子です。夏休み中は、水曜、金曜に例会を持ち研究を始めます。実習はアイスクリームの予定。

＜茶道部＞

記念祭にそなえて、飾り棚（二年）平点前（一年）を、練習中。

＜地学研究部＞

毎日かかさずに、気象観測と太陽黒点の観測を行なっています。例会日は記念祭の準備に追われています。また、夏休みには、岡山県成羽方面へ化石採集旅行、夜間観測などの予定があります。

＜写真部＞

四月、新入部員を迎え、ひさしぶりに全学年がそろった。そして六月の校内展を目標にわれわれがん張った。六月十五日、芦屋市展が開かれ。さいさきよく、十六人が作品を出したうち、入選者は実に十四人を数えた。クラブ衰退の芦高にあって、バスケット部とともに「芦高ここにあり」と、芦高生の士気を高めた。六月二十日、校内展を行なう。

＜生物研究部＞

今年の四月に二十余名の新入部員を迎え総員三十余名でスタートを切った。

顧問の先生の指導による基礎実験や、昨年にも増して高度化したプランクトンの共同研究の徹底に、この一学期を費し、また、今学期後半から昨年と違った新しい方針で実行することになった記念祭について相談し、すでに全員でその問題に取り組んでいる。

＜化学研究部＞

厳めしい名前ですが、名前に相応した人が一人もいないのが化研の良いところです。上級生、下級生、ともども和気あいあいと考え実験するのが、化研の伝統ではありません。夏の暑い最中に試験管に向かい、何度も失敗を重ね、良い結果を生みだすときが、そこに化研部員としての喜びがあるのです。全部員、記念祭を目ざしてがん張っています。

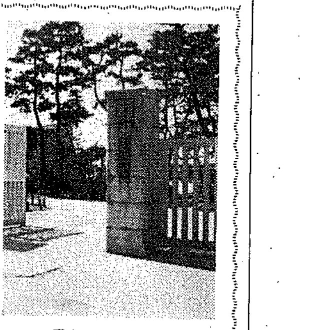
＜演劇部＞

まだ、新しくない出発したところで、何ぞ活動がスムースに行きません。しかし二年生が一生けん命に一年を引っ張って、演劇面のことやら高校生活についてなど、話し合って早く充実したクラブにしようと努力している。

清潔・純粋な校風で

他校訪問

＝甲陽高校の巻＝


甲陽高校正門

甲陽高等学校は阪神甲子園駅から歩いて数十歩の所にある。校門はあまり目立たない所にあるが、さすがに名門校だけあって大正九年創立のその古い校舎は堂々しく、威厳に満ちていた。

この学校は阪神のそばにあるが全然騒音が聞こえない。まず出版委員の人の案内で校舎を見て回った。最初に見て回った所はいろいろな科目別の教室である。芦高にはあまりないが、この学校には地理教室とか歴史教室だとか、化学講義室、物理講義室といった教室が多数ある。理科系教室は実験室がまた別にあるが、実験は全くないそうである。

この学校のクラブ数は現在、文化部十三、運動部十二だそうである。なおクラブの入部者数は生徒数の半分強であまり活発ではなさそうである。文化部の中には芦高にはないような変わった部もある。文化部教室を一通りみて運動部関係へ回った。

まず初めに行ったところが体育館であった。体育館は古いせいもあったが、芦高よりは劣っていた。体育館の横には柔道館があり、柔道部はそこを専用しているそうである。われわれが行ったときは校内大会の練習部以外には練習をやっていなかったようであった。次にわれわれは講堂へ案内された。まず驚いたのが国会議事堂の会議場なみで、非常に立派で大きかったことだ。座席が一階と二階にあって、全生徒数（六百五十名）の二倍も入れるほどである。

食堂は衛生的で明るく、二百名収容できるそうである。

校舎を全部見回り、われわれは一室に入って、出版委員の人にいろいろと質問してみた。まずこの学校の生徒会は一院制で代議員会と評議員会から成っているそうで、議員の任期は毎年七月～十二月で選挙期間は一月～六月だそうだ。生徒会の性格は外から見れば活発であるが、内から見たら、あまり活発でないということだ。学校行事としては五月に創立記念祭というのがあって、六月に体育会があり九月に文化祭がある。その他に一学期に一回校内大会をするそうだ。次に長所、短所をたずねると、長所はイス、机などの公共物が全然きたないということで、短所としては消極的で甲陽というカラにとじこもっていることと権利ばかりで義務がないということだと答えてくれた。

最後に学校の理想を尋ねた。第一に先生と生徒の意見が反映できるようにしたい。第二に特殊科目をもっと増してほしいということであった。

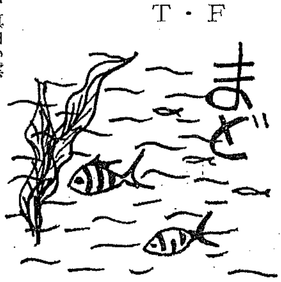
この理想からもわかるように先生の圧力が非常に大きいということを感じる。このように清潔、純粋であるが、一見消極的なようにみえる校風である。しかしその校風の中にもその消極さを改善していこうという彼らの気風が感じられた。

撮影とD.P.E
証明写真即日仕上（3枚付　￥250）
フジ・さくら　カラー指定店
武村フォトスタジオ
阪急・芦屋川大利本屋川向い
TEL ② 7712

詩

白い雲

T・F



夏の雲、真白い雲
すべての純潔をそれそのものに託しているかのように
夏の空、青い空
ベットリとギラギラ光る油絵の具のように
だいぶ濃くなった柿の葉の間から、一筋もれた日の光
その光をたどってギラギラ光る
青い空をバックに
ずっと　ずっと
遠く　遠く
あの真白い雲まで　力の続く限り、息せき切って、かけ出して行きたい

おじゃまします

よきママさん

今回は、今年から新しく芦高に入って来られた本校の先輩である英語担当の石川先生のお宅を訪ねた。先生のお宅は御影駅を少し上がって行った所に緑に囲まれた涼しそうな、そしてカベが水色の家である。中に入ると先生の子供さんが出てきた。

そこで坊やのレコードをかけながら対談を始めた。

Q　先生になられた動機は何ですか。

A　努力が現われて、進歩のよろこびがあるからです。

Q　ご家族は。

A　主人とその両親と子供が一人、それに犬が二匹です。

趣味はピアノと登山

=石川先生の巻=

Q　先生の御趣味は。

A　ピアノを引くこと、映画それに山登りです。

Q　高校時代で好きな科目は何でしたか。

A　文学系統でした。物理や数学は苦手でした。

Q　大学時代にクラブはどこにはいっておられましたか。

A　E・S・Sでした。

Q　体操はどうでしたか。

A　苦手でした。

Q　性格は。

A　消極的ですが、先生をしているので少し変わっていくと思います。

Q　学生時代にボーイ・フレンドはお持ちでしたか。

A　消極的なためにいませんでした。

Q　家の環境は。

A　夏はすずしくて、春には桜が咲いてきれいです。

Q　レコードはどんなものを聞きますか。

A　ミュージカルやシャンソンです。

Q　先日来日したビートルズについてどうですか。

A　イエスターデイなどはよかったと思います。

Q　芦高の印象は。

A　高校が芦高なので、なつかしく思いました。高校時代に登校した道はなつかしい。野球部のグラウンド整備は昔もやっていました。

Q　学生時代の愛読書はありますか。

A　中学時代は芥川竜之介などを読んでいました。高校時代は外国文学で主にチェーホフの短編小説を読んでいました。

Q　尊敬する人はいますか。

A　偉人の中ではいませんが、特に尊敬する人なら私の母です。

Q　子供さんの教育方針は。

A　健康でのびのびと育ってくれればよいと思いすま。

Q　家族でよく遊びますか。

A　みんな遊び好きなので、よく犬をつれて山へ行きます。

Q　今年の自治会選挙についてどう思われましたか。

A　後で聞いていたのですが、話を聞いてやじをとばすのはよいのですが無関心でうるさいのはいけないと思います。

Q　自由についてどうお考えになりますか。

A　全体のまとまりはないかもしれしれませんが、個性をのばすには都合がよいと思います。

夏休みにはこんな所へ

旅行案内　景勝地を尋ねる

▽アルプスの展望台

▼美ガ原高原—中部

【行程】大阪—（急8時間10分）—松本（18分）浅間温泉—（バス1時間20分）三城牧場（1時間40分）—美ガ原—（徒歩3㌔）頂上

中央線松本駅が北アルプスの山山への拠点（松本城が市内随一の名所）そこからバス、電車15分で浅間温泉がある。田園の中に開けた温泉であるが、北アルプスの展望も楽しめる。美ガ原はこの浅間温泉から、美鈴湖・武石峠を経て頂上近くの天狗の露地まで国鉄の直通バスで1時間30分、シーズン中三—四往復、松本駅から舟付・焼山経由で松本電鉄バスが六往復以上、1時間半で行ける。天狗の露地から約一㌔、15分余りで最高峰王ガ頭である。標高二、〇三四㍍。ここは文字どおりアルプス展望台である。

残雪の輝く北アルプス連峰、立山、白山、木曽の山々、中央・南アルプス、富士山、甲信越の山々など、360度の広がりで、登山客を迎える。また高原の広がりも随一で、武石峰、焼山、王ガ鼻、茶臼山、鹿伏山、牛伏山、物見石山など二、〇〇〇㍍級の山が北西から東南へ10㌔余り起伏して続き、頂の草原は高山植物に飾られて果てしなく続いている。高原の中央に美しい塔が建っている。

▽芭蕉の遺跡行脚

▼伊賀上野

【行程】天王寺—（1時間45分）—伊賀上野—（10分）—上野市—（1時間38分）—近鉄上六

上野市の白鳳城から少し下がった北側に俳聖殿がある。（二層屋根の上がカサ、下がミノで郷土が生んだ芭蕉の旅すがたを形どっている）堂内に、伊賀焼でつくられた等身大の芭蕉像が置かれている。

崇広堂で遺墨や文庫の展示を見るのも、遺跡行脚には欠かすことのできないコース。

町の西へ坂道をおりたところが鍵屋ノ辻である。剣豪荒木又右衛門の三十六人斬りの遺跡。

また伊賀は忍者の国としても有名で忍者の伝説にも満ちている。帰り道は伊賀神戸を経て、赤目口へ、赤目四十八滝の渓谷美も楽しめる。

▽浦富海岸—山陰路

【行程】大阪—（急4時間52分）—岩美—（バス7分）—浦富海岸

海水浴のほか島々の岩礁、海岸線が美しい。遊覧船か漁船で見物東は羽尾岬、洞窟と岩礁の多い海蝕風景が見られる。高さ一〇㍍、幅八㍍、奥行き一五〇㍍の竜神洞がある。西には松島から田後の岬をまわると、門島、ラクダ島、角島、石垣島、柴山、酒島の島々や経ガ鼻岬、赤壁などの洞門、兜落の断崖、虚空蔵山の絶壁などが見られる。（北野三郎著〝関西からの一泊旅行〟より）

古都をたずねて

太秦の広隆寺

今さら何もあらたまって紹介するほどのこともないが、古都、奈良や京都はいつ行ってもいいところである。特に文学的に…などといわなくても。

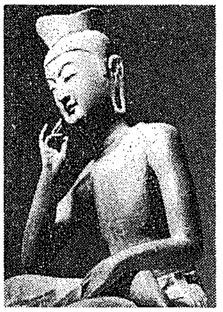
奈良は案外小さいまちである。そんなに無理しなくても一日で全部の お寺をまわれる。それもほとんど歩いてばかりだから交通費もかからない、そして一番重要なことには京都ほど観光化していない。その観点からいけば、おセッカイかも知れないが、東大寺大仏殿は小学校の遠足にまかせて、その入場料で鹿センベイでも買って一緒に写真におさまっている方が気がきいている。ともかく奈良は楽しみながら歩いていればいつの間にかひと回りして、少々方向音知でも安心して行ける。

ところが、京都はやはり大都市で無計画に行くとバカみたいに交通費がかさむ。どこか一区に決めて、そこを徹底的に見てまわった方がいいのではないかと思う。ここでまたおせっかいな気をおこすと、金閣や清水さんなどはまだ一回も行ったことがないのだったら別だが、そうでなかったらやめた方がいい。人がワンサといて暑いだけである。

京都はまちの周辺を訪れる方が京都らしい。（ぽんと町などは学生に関係ないので）春や秋ならば嵯峨野が一番だと思うが、まず夏は少し暑いだろう、そこで観光案内には必ずトップに載っていながら案外人の少ない古寺、太秦（うずまさ）の広隆寺などはどうかと思う。京福電鉄嵐山線太子前でおりるとあっけないくらい目の前にある。その昔、帰化人秦氏によって建てられ、国宝第一号の弥勒菩薩半伽像は…と有名なものであるが、建物や環境は案外ひなびている。

国宝級や文化財級のモノは全部一つの割に小さな堂におさめてあるが、見てまわるのにうんざりするほどかためてならべてある。ぐるっとまわって、仏にあきだしたころ、弥勒を見るとドキッとする、写真で見るとおだやかなものだが現実に正面から見ると恐ろしく近代的なムダのないボサツさまである。もっとも、少しでも仏を訪ね歩いた人ならば、弥勒は中宮寺の方がずっといいというが、ともかく一回は見る価値があると思う。そしてあとは近所をまわればよい。

同じ京都に行くなら（洛北の方ならば）広隆寺の辺が穴場ではないかと思う。ただし京都に行くにしても、奈良に行くにしても、拝観料にいちいち文句をいってはならない。切りがないからである。



映画紹介

宗教的雰囲気で

≪汚れなき悪戯≫

この映画は今から約十一年前くらいに作られたという。最近は洋画のリバイバルブームか何かで、その昔、感動した名作を再び私たちの胸の中によみがえらせることができるようになった。この「汚れなき悪戯」（マルセリーノ、パンと酒）もそんな名作の内の一つである。スペインのピレネーのふもとを舞台に、十二人の僧侶たちの手で育てられた純真で汚れを知らない一少年マルセリーノの巻き起こす悪戯のかずかず…。僧たちはマルセリーノがつけたあだ名で呼び合う。親友もない孤独な毎日の生活にいつしかまだ見ぬ母に憧れ愛情をいだくマルセリーノ。そしてついに最後には彼の願いがかなえられ、天国に眠る母の下へキリストに導かれ永遠に去って行ってしまう…。という漠然と物語の結末を聞くとまるで悲しい最後のように思える。

しかし、それをまた反対に考えてみると実にハッピーエンドなのだが。この物語全体を通して受ける宗教的な雰囲気。さっきハッピーエンドだといったが、そのこともこの宗教的ムードという言葉と容易につながるのではないかと思う。マルセリーノがキリストに導かれ天に召されるというところは、カトリックを重んじるスペイン人にとってこの上もない幸せなことなのだろう。キリストの像が口をきいたり、パンを食べたり、また天に人が召されるなどといったりすることは、現実においてはまったくのうそだといっていいくらいだ。が、しかしこの映画を通して感じる中にそういう不自然さという物よりむしろ、人力を超越しきった、神の尊さ、汚れを知らぬ者の美しさ、そういう物をスペイン宗教という名の下に、まじまじと感じさせてくれる。

女気のない男ばかりの映画だが、それでいて、どこにもきびしさという物を感じない。というのも、この男たちが、神に仕える僧侶であるというところに、全体のムードを柔げている原因があるのではないだろうか。

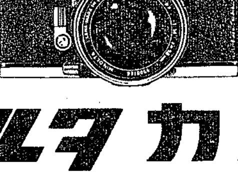
しかし絶対、忘れてはいけないのはマルセリーノに扮したパブリートカルボ少年の名演技だろう。母のない孤独な中に明るさを忘れない、そういう少年の心理というものを何かいじらしく手に取るように感じさせてくれる。そして一口に「かわいらしい！」といおうか、彼の自然のままの動作におもわず顔をほほえまさずにはいられないのだ。少年のまだ見ぬ母への愛情が他の何物にも増して強いのは、私たちの心に何か強く訴えるようである。現実と空想の混じった。ファンタジックな物語をバックに流れる主題歌が印象的に旋律を刻む…。いつまでも知れぬ感動を呼び起こすだろう、このスペイン映画の傑作。

編集後記

毎号のことながら、いま編集を終えて、感じることは「やっと終わった」というのがいつわらぬ感想です。

今号は計画の立て方が悪く、せっぱつまってやったために非常に出来が悪いのをおわびいたします。特に二面の座談会では出席者の方々にも大変迷惑をおかけいたしました。ここに改めておわびさせていただきます。

その二面ですが「自治会選挙」について特集をしましたが、結局中途半端なものになりました。



世界の　カメラ

ミノルタカメラ

ミノルタカメラ株式会社・大阪市南区塩町通り4—18